

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和元年7月1日

東員町議会議長

三宅 耕三 様

東員町議会

近藤 敏彦

研 修 報 告 書

研修期間	令和元年 6月 27日 (木) ～ 6月 28日 (金) 【2日間】
研修（視察）先	・長野県軽井沢町 ・長野県川上村
目的（テーマ等）	<軽井沢町> ・議会とまちづくりを語る会（議会報告会）の手法及び現状について ・通年議会導入による議会活動について <川上村> ・教育施設（中学校）建設における補助金等の活用について
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。



様式 1 [申し合わせ事項]:【委員会、全協：共通様式】

[氏名：近藤 敏彦 ]

研修概要、内容、所感

6月27日

長野県軽井沢町

軽井沢町は長野県の東に位置しており標高約 1,000m の高原の町である。面積の半分が国立公園や国定公園内にあり自然豊かな町であり、保健休養地として発展してきたが、近年では国際親善文化観光都市としても注目されるものである。

面積は約 156 km<sup>2</sup>で人口約 2 万人の町であるが、予算総額が約 212 億円と規模の大きな町であることに注目したい。

研修テーマの一つである議会報告会についてであるが「議会改革検討特別委員会」を設置してから約 5 年後に第 1 回議会報告会が開催されている。以来、年 2 回、町内 30 区を 3 小学校区に分けて実施している。

内容は報告などは 20 分程度にして、多くを意見聴取に割いており、その場で即答できないものについては、後の議会だよりに回答を掲載したりしている。

通年議会制については平成 22 年より移行しており先進的と思われる。

通年議会制を導入することで閉会中の活動休止期間がなくなり、委員会なども常時機能しているため、チェック機能や緊急対応などが可能となる。

また議長はいつでも議長の権限で議会を招集できることもメリットの一つである。

<所感>

議会報告会については、事前の周知が重要であると感じた。軽井沢町では新聞の折り込みチラシや NHK データ放送なども活用しており、議会だよりやホームページなどの従来の方法に加え、手厚い周知をしているということで、大いに参考にすべきと感じた。

また、報告会というよりも意見聴取に重きを置くことが重要であり、それこそが風通しの良い議会であることの証になり、住民からも信頼されることにつながると思う。

通年議会制の導入については、メリットも理解できるが、東員町での導入については、もう少し勉強を重ねて慎重に進めるべきと感じた。

まずは議会報告会の成功を第一優先とすべきと思う。

6月28日

長野県川上村

川上村は長野県の最東端に位置しており面積は約209km<sup>2</sup>で標高1100m以上に位置しており、地の利を生かした高原野菜、レタスにおいては日本一の生産量を誇る野菜王国である。人口は4000人程度である。驚いたのはこの村には外国人労働者が約1000人も従事しているということだ。

ここでは、川上中学校を見学して様々な情報を得ることができた。

またも驚いたことが、この中学校の事業費は約18億円であるが、国や県の補助金が9億円以上入っており、約半分の基金や起債による自己負担で賄えているということである。

文科省より「安心・安全な学校づくり交付金」として約6億9千万円が、国交省より体育館と音楽室に対して「まちづくり交付金」として1億8千万円、新エネルギー（パッシブソーラー）補助金としてNEDOから約800万円、長野県より地元木材を利用することに対して約300万円などの補助金が交付されており、様々な方面からの補助金、交付金などを上手く活用していることに感心した。

この中学校は竣工当初は1学年2クラスで生徒数は168名であったものが、現在では1学年1クラスとなり生徒数は76名となっている。

地元産の材木を多く使用しており、木の温もりを感じる素敵な校舎であると感じた。

#### <所感>

約10年前に建設され、それ以前からの準備に数年かけての時代背景が、耐震偽装などで揺れていた時期で、国からの特別な補助金があったことによる高い補助率で建設できたことが最大の特徴であると思う。

本町でも準備段階で補助金の情報収集に時間と労力を十分に投入すべきであると痛感した。自主財源をいかに少なくできるかが大切であると思う。

また、時代の流れかもわからないが、木材をふんだんに利用することが良いこととされているが、適材適所であり、床などはすべてフローリングにすべきではなく、汚れの大きい場所や、水を使用する部分などは塩ビ床を併用すべきで、後のメンテナンスのことも十分考慮しながら進めるべきと思った。

以上